健康プラス　～病院で叶える、一歩進んだセルフケア～



むくみや疲れをやわらげるケアのご紹介

当院では、術後や病後に起こるリンパ浮腫に対し「リンパドレナージュ（90分）」を提供しています。木曜午前には、リンパ浮腫以外のむくみがある方やご高齢の方、長時間同じ姿勢での施術が難しい方、リンパドレナージュを試してみたい方に向けて、ポイントケア（30分／税込3,960円）も実施中です。健康維持はもちろんのこと、疲れやストレスをやわらげて心身をリフレッシュするケアとして、お気軽にご利用ください。

こんな方に特におすすめ

ストレスやむくみが気になる方　健康維持を目指す方　美容に興味がある方

利用者の声



ポイントケアの診療の流れ

1. 医師の診察（保険診療）を受け、治療許可を得る
2. ポイントケアコース（自費診療）をお電話または窓口で予約
3. ご予約の時間に来院。次回予約はオンラインでOK!

再診予約用サイトはこちら

※「リンパ浮腫」の治療をご希望の方は、メディカルリンパドレナージュ（90分／毎週火・木曜午後）をご予約ください。※要紹介状
※一般診察やリハビリと同時に受診することはできません。

地産地消　さといも



60歳で農業デビューしました!

日進市で「さといも」を育てている土屋政子さん（77）。さといもやプチヴェール®、アレッタなど多品目を約10アールの畑で育て、日進グリーンセンターや学校給食へ出荷しています。農業を始めたのは60歳のとき。農業を一から教えてくれる農家さんと出会い、その魅力にハマっていきました。農家さんとのつながりを何よりも大切に、積極的にコミュニケーションを図って情報交換をしたり、畑を一緒に管理したりと楽しく取り組んでいます。さといも栽培に重要なのは水。乾燥に弱いため灌水などの管理をしっかりと行い、収量増を目指しています。葉を見るだけで「土中にあるさといもの大きさが分かる」と土屋さん。毎日畑に足を運び、生育を見守っている証です。今後も良い品を出荷し、農家仲間と楽しい日々を送りながら、できる限り長く農業を続けていきます。

おいしいさといもの見極め方
- おしりが固く締まり縞模様がはっきりしている
- ずっしり重い
- 傷や芽・カビのない泥付きのもの



土屋さんの野菜を購入できるのは「日進グリーンセンターni+co」
【住所】日進市蟹甲町池下213-1　【TEL】0561-72-0016
【営業時間】4～9月 8:30～18:00／10～3月 8:30～17:00
【定休日】水曜（正月、棚卸休み有）
- 地元の農家が朝採れの野菜や旬なものを出荷し、販売しています。
- 農産物以外にも苗や肥料、農機具など農業に必要な資材も豊富に取り揃えています。
- 毎週火曜日は「お米の日」! お米をお値打ちにお買い求めいただけます。ご来店をお待ちしています。

【誌面協力】JAあいち尾東

賛助会員募集のお知らせ

アメニティーの充実（施設環境、造園、園芸）、ホスピスでの諸行事、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。（ご入会いただいた方には年に4回広報誌をお送りいたします）下記の口座に会費をお振り込みください。

【①郵便局窓口利用】郵便振替口座　00890-5-3757　【②ATMおよびインターネット振込利用】ゆうちょ銀行（9900）　店番089　当座0003757
【①②口座名義】愛知国際病院ホスピス賛助会　【一口】1,000円（おいくらでも結構ですが、できましたら、5口以上でお願いいたします）

【医療法人財団 愛泉会】
■愛知国際病院 ■老人保健施設 愛泉館 ■指定居宅介護支援事業所 愛泉館 ■日進市東部地域包括支援センター
■訪問看護ステーション えまい ■有料老人ホーム カナン 【関連施設】アジア保健研修所（AHI）
〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-31　Tel.0561-73-7721（代）　Fax.0561-73-7728　http://aisen-kai.jp/
医療法人財団 愛泉会 広報誌「みなみやま122号」　発行日：2026年10月1日　発行人：井手宏　編集発行：法人だより委員会　編集長：近藤正嗣
※無断で複写、複製、転載することを禁じます。

お問い合わせ
【受付時間】月～土曜 8:30～17:30

医療について　地域連携室　0561-73-9179

介護について　日進市東部地域包括支援センター　0561-74-1300

医療法人財団 愛泉会　愛知国際病院 | 老人保健施設 愛泉館

みなみやま

2026年 秋
vol.122

特集

1～4
ともに歩む 医師の想い ～渡辺 伸一～
急性期医療から在宅医療へ 患者さんの「その後」を診る
5　愛泉館 リハビリ通信
●再び、畑仕事を楽しんでいます!
6　インフォメーション



特集 | ともに歩む 医師の想い
～渡辺 伸一～

急性期医療から在宅医療へ 患者さんの「その後」を診る

判断が早く、どう処置するか、すぐに指示をくださるので、とても頼れる先生です。
看護師

患者さんについての相談なども忙しい時でも快く引き受けてくださって、心強いです。
事務職員



在宅医療の心得
- きめ細かく対応する
- 不安に寄り添う
- ご家族に耳を傾ける
- 気持ちを受け止める

愛知国際病院 訪問診療 **渡辺 伸一**

Profile
藤田保健衛生大学（現・藤田医科大学）卒業後、研修医時代から救急医療に携わり、脳神経外科医としてキャリアを積む。2005年に博士号取得。2007年から約10年、在宅専門クリニックで在宅往診医として勤務。専門知識を最新状態に保つため、一般病院に2年勤務。2019年、愛知国際病院の非常勤医師として訪問診療を担当。2025年、常勤医となる。

誰かの役に立てる仕事

私が小学生の頃、産婦人科医だった父が自宅で開業しました。人が生まれてくる瞬間に立ち会う父の姿を見ながら、「誰かの役に立てる、助けになる仕事に就こう」と、いつからか医師を目指すようになりました。研修医時代、最も惹かれたのは救命救急でしたが、私の所属する大学病院では脳神経外科が救命救急センターを兼任していたので、迷わず脳神経外科に入りました。医師4年目には救命救急センターのチーフとして、救急患者さんと向き合う日々。熱傷、骨折、首や腹部の損傷など、心臓以外の初期治療はすべて対応しました。1日おきの当直に加え、緊急手術が入れば帰宅もできないほどのハードな毎日でしたが、あの頃の経験が、その後の在宅医療にも大いに活かされています。

在宅医療の奥深さ

脳卒中など瀕死の患者さんを救う外科医は、やりがいの大きい分野です。その一方、急性期治療を終えた患者さんがリハビリ科などへ転棟・転院した後、関わる機会はあまりなく、日常生活に戻れたのか知るすべもありません。次々と手術するのが大学病院の役目と頭で理解できても、医師として寂しい気持ちもありました。

外科医になって10年ほど過ぎた頃、後輩が在宅医療へ進むことを知り、在宅診療医に興味を持ちました。対象となる方のなかには、急性期医療の「その後」の患者さんが多くいます。これまで私が関われなかった「その後」を、在宅医療で取り戻したい。急性期の医療を知る自分だからこそ、患者さんの状態を深く理解し、ご家族にもきちんと説明できるはず。そう考え、40代半ばで、在宅医療への一歩を踏み出しました。

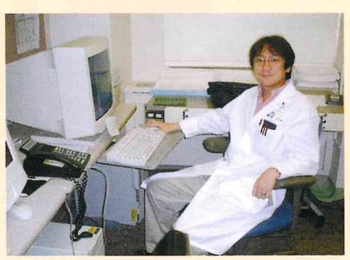
在宅医療は、患者さん一人ひとりで対応が異なります。同じ薬であっても、ある患者さんには合わず、別の患者さんには適しているなど、さまざまな選択肢を組み合わせ、その人に合った医療を考えるところが奥深い。また、糖尿病や高血圧などの領域では新しい薬や検査法が登場し、そのスピードは早まる一方です。循環器、呼吸器、腎機能など幅広い領域を診る在宅医療だからこそ、知識のアップデートは不可欠で、外科医とはまた違ったやりがいに満ちています。

脳神経外科医を強みに

2019年から愛知国際病院の非常勤医師として在宅医療を担当するようになりました。やがて在宅医療の患者さんが増え、長く同じ患者さんを診る医師の必要性を感じ、2025年から常勤となりました。愛知国際病院の魅力は、さまざまな分野の医師が揃い、いつでも相談できることです。一人の医師だけで判断せず、多様な意見を聞きながら、患者さんに最善の方法を探ります。脳神経外科医である私の強みは、重症度の判断ができることです。例えば、今すぐ病院へ行くべきなのか、在宅で様子を見てよいのか。専門的な判断ができるので、「とりあえず大病院で診てもらおう」と搬送することもなく、患者さんやご家族の負担を減らせていると思います。

在宅医療は、一刻を争う治療とは異なります。看取りもあります。心不全や誤嚥性肺炎を患うと、苦しみを伴いますから、そうならないよう、日頃から注意すべきことをご家族にお伝えすることも大切な役目です。末長く寄り添い、最期まで穏やかに過ごしていただけるよう、一人ひとりに合った在宅医療を届けていきます。


救命救急センター勤務時代


アメリカでリサーチフェローをしていた頃

OFF TIME

渡辺先生の休日

中学生の頃、料理に目覚める。「グラタンが食べたかったけど、当時は食べられる店も少なく、自分でつくったのがきっかけです」。ナポリタン、ピザなど、レストランの人気メニューが得意だそう。



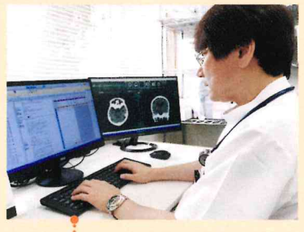


渡辺先生の
ある1日

ご自宅や施設の患者さんに会いに行く。
外科・内科を広く診る訪問診療医

常に「予習」を怠らない渡辺先生。
病院を出発する前から診療は始まっています。





在宅診療部でカルテをチェック。患者さんに変化がないか確認します。





スタッフの間で、患者さんの情報を共有します。

事前に予習をしてからご自宅や施設を訪問

施設を含めると、多い日には1日に20〜30人の患者さんを診ることも。在宅医療では「症状を伝えられない患者さん」も少なくないため、出発前の「予習」が欠かせません。「さらに、移動中の車内も看護師さんから情報収集する貴重な場です。今日は患者さんの何をしっかりと診るべきか、一つひとつ確認します」

病院に戻ってからもテキパキと業務をこなす

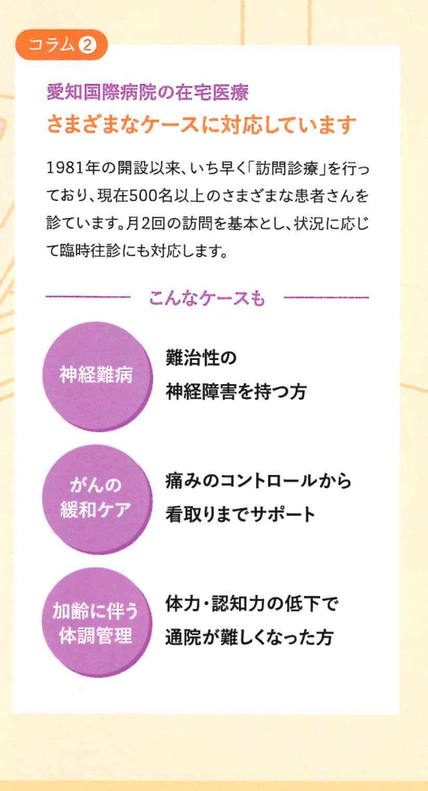
訪問した患者さんのカルテに詳しく記載。さらに、処方箋の記録、採血の指示、検査結果の確認など、行うことは山ほどあります。



特別養護老人ホーム「のぞみ」を訪問



訪問する際は、事前に入所者さんの健康状態をスタッフさんから確認しておきます。



コラム❷

愛知国際病院の在宅医療
さまざまなケースに対応しています

1981年の開設以来、いち早く「訪問診療」を行っており、現在500名以上のさまざまな患者さんを診ています。月2回の訪問を基本とし、状況に応じて臨時往診にも対応します。

こんなケースも

- 神経難病 — 難治性の神経障害を持つ方
- がんの緩和ケア — 痛みのコントロールから看取りまでサポート
- 加齢に伴う体調管理 — 体力・認知力の低下で通院が難しくなった方

出勤 → 9:00 在宅診療部のミーティング → 9:15 午前の訪問診療 → 11:30 帰院 → 13:30 医局会（毎週火曜日） → 14:00 午後の訪問診療 → 16:00 帰院 → 帰宅

コラム❶

状況に応じて、臨時往診にも対応

訪問中や車での移動中、突然、往診依頼の連絡が入ることも少なくありません。その場合、携帯しているノートPCでカルテをチェック！リアルタイムに見られるカルテは往診時に不可欠です。



患者さんに関する情報集めも訪問看護師の重要な役目です

訪問する患者さんに関する情報は、訪問看護ステーションやご家族などから集めます。ご家族がいらっしゃらない患者さんは、医療従事者の皆さんと共有している「連携ノート」が重要な情報源です。

在宅診療部 看護師



コラム❸

在宅医療の健康講座
訪問診療について、分かりやすく紹介

愛知国際病院では、地域の方に向けてさまざまな健康講座を企画しています。昨年11月に開催した講座では、「知って安心、こんなに便利『おうち診察』入門」をテーマに、渡辺先生が講師を担当。どんな人が利用できるのか、どんなメリットがあるのか、実例に基づく話に、参加者さんの多くがメモをとるほど大好評でした。





NEXT DOCTOR

次回の担当は溝口先生です！

愛知国際病院のドクターの中では若手。疑問点や気になることはきちんと口にして、スマートに意見を言ってくれる、積極的にアイデアも出してくれる先生。これから先が楽しみな方です。

愛泉館 リハビリ通信

ずっと、おうちで。



Before

80歳代女性
人工関節置換術（右膝）



右膝の痛みにより、人工関節置換術を受けたものの、疼痛や関節可動域制限が見られました。杖を使って歩けますが、筋力低下のため、15分ほどで歩くことも立っていることも辛くなる状況でした。「以前のように動けるようになりたい」と、週2回、半日デイに通い始めました。

リハビリプラン

- 関節可動域訓練
- 下肢筋力訓練
- セルフケア指導
- レッドコードを使用した荷重訓練
- バランスクッションを使用したバランス訓練
- 畑仕事を模倣した動作確認

目 標

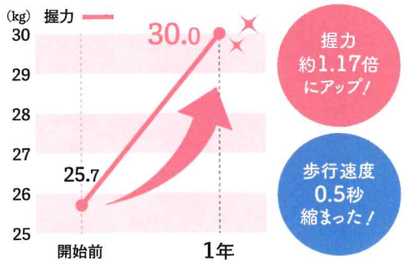
【短期目標】
- 疼痛軽減
- 可動域改善

【長期目標】
- 長時間の作業実施

After

再び、畑仕事を楽しんでいます！





握力 約1.17倍にアップ！

歩行速度 0.5秒縮まった！

「家事や畑仕事ができる自分に戻りたい！」と、週2回、半日デイケアに通い、短期集中リハビリ（40分）を続けること数カ月。膝の痛みが軽減され、少しずつ可動域が広がっていきました。また、筋力がアップすることで、日常動作もスムーズに。1年後には、家事や外出の時間も増えるなど、以前のような生活を取り戻しました。大好きな畑作業にも精を出し、夏には立派なきゅうりを収穫できました。





回復・結果（半日デイ 週2回）

	TUG※（秒）	5m歩行（秒）	握力（kg）
開始前	9.0	3.5	25.7
1年後	5.9	3.0	30.0

※リハビリ対象者の移動能力とバランス能力を短時間で評価できるテスト

個々の目標に合わせたプログラムを提供しています



リハビリセラピスト

コラム

夏の畑に実る喜び～「以前のように」を取り戻す～



今号では、この夏、右膝の手術を乗り越えて大好きな畑仕事や家事を再び楽しめるようになった80歳代の女性をご紹介しました。リハビリ開始当初は、膝の痛みや動かしにくさがあり、15分ほどの立位作業や歩行もつらい状態。「以前のような生活や畑仕事がしたい」――その願いを胸に、半日デイでの個別リハビリや筋力強化にコツコツと取り組まれました。その結果、今では膝の痛みなく、1時間以上の畑仕事もできるようになり、「今年も立派なきゅうりを収穫しました！」と満面の笑みを見せてくださいます。目標に向かって一歩一歩積み重ねた時間は、確かな自信と身体の変化（TUGや歩行速度の向上！）となって実を結びました。みなさんの「これがしたい」という日常の楽しみをぜひ私たちスタッフにお聞かせください。私たちはともに歩み、寄り添っていきます！

お問い合わせ　**老人保健施設愛泉館 通所リハビリテーション**　0561-59-1633（月曜～土曜　8:30～17:30）

Information

インフォメーション

愛知国際病院（ホスピス）

ホスピス夏祭りを開催

8月19日（水）の午後、毎年恒例のホスピス夏祭りを開催しました。当日はスタッフも浴衣や法被姿にチェンジし、オカリナ演奏や盆踊りを披露。音楽療法士のコンサートでは、患者さんと一緒に懐かしい夏の歌を合唱しました。お部屋で過ごされている患者さんには、「かき氷隊」が冷たい氷菓子をお届け。短い時間ではありましたが、賑やかで涼しげな夏のひとときを楽しみました。



ボランティア犬のハルくん

愛泉館

ストーマケア勉強会を実施しました

9月7日（月）、愛知医科大学病院 皮膚・排泄ケア外来看護師の江上直美氏を講師にお迎えし、ストーマケア勉強会を実施しました。ストーマ※の種類や特徴、装具の選び方、皮膚トラブルの予防、装具交換の方法などの基礎知識に加え、日常生活における食事や水分の管理、固定具の工夫についても学びました。今回の学びを活かし、利用者さまが安心して快適な生活を送ることができるよう、今後のケアの質の向上につなげていきたいと思います。

※手術により腹部に作られた人工肛門や人工膀胱



AHI（アジア保健研修所）

2026年度国際研修生がやってきました

当院のお隣にあるAHIでは、今年もアジア9カ国から、NGOワーカー11名とコーディネーター1名を国際研修生として受け入れています。人々の健康や開発を支援する活動を行っているNGO職員や、地域づくりワーカーである研修生たちは約1カ月間日本に滞在し、それぞれが抱える社会課題について語り合いながら、現地での問題解決の糸口を探します。今年のテーマは「参加型アプローチによる住民エンパワメント～持続的なコミュニティづくりのために～」です！



表紙のイラスト

見る人の心にも、秋の彩りを



大学では、受け取る人の気持ちを考えながらデザインを学んでいます。自分の世界観を表現するだけでなく、周りと意見を出し合い、より良い作品を作ることを楽しんでいます。また、パステルの粉を指で描く技法など、新しい表現に出合えることも魅力です。一方で、頭の中のイメージを形にする難しさもあり、試行錯誤の毎日です。今号の作品も、鮮やかな紅葉のグラデーションを見る人の気持ちに思いを巡らせながら、丁寧に制作しました。みなさまの心が和らぐきっかけになることを願って…。

名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科 3年 吉田 心愛さん

コンサートのお知らせ

村瀬 香ピアノ 近藤 幹夫マリンバ デュオリサイタル



当院ホスピスの音楽療法士、村瀬さんと近藤さんによるデュオコンサート。音楽を通して多くの方々と大切な時間を分かち合う二人が、演奏家として自らの音楽に向き合い、問い続ける日々の歩みをお届けします。

【出演者】村瀬 香（ピアノ）　近藤 幹夫（マリンバ）
【日　時】11月7日（土）13:30開場、14:00開演
【会　場】長久手文化の家 風のホール
【入場料】一般 3,000円　高校生以下 1,000円

お問い合わせ　troispoemes@gmail.com

あなたと共に、パートナーシップ宣言

わたしたちは、患者さん・ご利用者さんやご家族の診療・介護への参加を推進しています。

